

令和6年度 夏季研修報告

都立城東特別支援学校

1 ICT研修

講師 海老沢 穰氏（本校外部専門員）

◆ ワークショップ①

(1) 「AACとしての活用」 えこみゅ（LITALICO Inc.）、DropTap（Droplet roject）
での教材作成や活用事例

(2) 「アクセシビリティ機能」 ライブスピーチ、アクセスガイド、アシスティブアクセス

◆ ワークショップ②

(1) Keynoteライブビデオの活用 (2) 特別支援教育向けの教材作成アプリ

◆ ワークショップ③

(1) Adobe Expressの活用 (2) Podletの紹介

○今回は、教員が自分で選んだワークショップで研修しました。研修後の先生達の声を少し掲載します。

「児童生徒の指導・支援に役立つアプリをたくさん教えていただき、勉強になりました」

「すぐに実践してみたいと思う教材の作り方が勉強になりました」

「初歩的なことは中々学ぶ機会がないけど聞くのも...と思っていたのでありがたいと感じました」

2 防災研修

講師 東京消防庁城東消防署大島出張所長 金田 誠一 氏

- ◆ 避難所設営訓練：危機管理本部・情報連絡班・施設搜索班・食料物資班・応急救護班・避難所支援班等に分かれ、物品の活用手順確認、品質期限確認、物品の入れ替え等を行いました。



○応急用品確認



○水の濾過



○連絡ボード

◆ 防災講演会

○保護者代表、地域代表の方と一緒に講演を聞きました。首都直下型地震は、今後30年間でマグニチュード7クラスの地震が発生する確率が70%とされています。防災対策として、家具の固定や避難経路の確認など、日常的な準備が重要です。その際の「自助・共助・公助」について講義を受けました。

3 労働安全衛生講話

講師 梅田 祥克 氏（本校産業医）

- ◆ 産業医と校医の違い

産業医とは、事業所などにおいて労働者が健康で快適な作業環境の下で仕事が行えるように、専門的立場から指導助言を行う。

- ◆ 健康診断結果の見方について

- ◆ ハラスメントについて

パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント、SOGIハラスメント、カスタマーハラスメント等と法的根拠やメンタルヘルスについて

○年に1回、産業医からその時々知識として必要な講話をしていただいています。今年度は、心身の調和を保って業務に当たるときに知っておきたい助言をいただきました。

4 夏季公開研修会①

講師 特別支援教育士、小学校特別支援学級担任 井上 賞子氏

「学びにくさのある子への学習支援 ～算数を中心に～」

講演と教材作成

- ◆ 基盤としての考え方～例えば「漢字の定着が進まない」という同じ状況の3人の児童について、
 - (1) ①何に困っているのか（現象） ②なぜそうした困難が生じるのか（困難の背景の予想） ③どんな支援が必要か（手立て、教具）を考える。⇒困っているところは、一人一人異なるのでは？
 - (2) 適切な学習量の確保
 - (3) 「その人自身の学びやすさ」を支える教具・教材を用意する。なければ自作。
 - ◆ 教材教具の具体的紹介と作成
- 地域の小・中学校の先生たちと一緒に研修を受けました。

5 夏季公開研修会②

講師 特別支援教育士、小学校特別支援学級担任 井上 賞子氏

「読み書きに困難をもつ子への学習支援」講演と教材紹介

- ◆ 読めないということ ⇒ 文字から情報を得ることができない。「読める」が前提の授業で追い詰められていく。
- ◆ 「読めない」の背景にあるもの ⇒ 例えば、白地に黒い文字だとまぶしくて文字を捉えにくい。うまく目を動かさなくてどこを読んでいるのかわからなくなってしまう。文字を音に変えるのが苦手な時間がかかったり間違えたりしてしまう。
- ◆ 同様に書けないということのデメリット、「書けない」の背景にあるもの
- ◆ 「読める・書ける」の発想の転換 ⇒ 読むこと書くこと自体が目的なの？ ⇒ 読んだり書いたりして、何かを理解したり、解決したり、伝えたりすることが目的なら支援ツール（ICTを含む）で補って学ぶことも取り入れよう。
- ◆ 井上講師が活用している教材、教具等の実物紹介

○地域の小・中学校の先生たちと一緒に研修を受けました

6 進路講演会

講師 社会福祉法人 敬心福祉会 江東区障害者福祉センター
福地 健治 氏

「共に築く未来

～学校と福祉施設で支え育むライフキャリア支援～

- ◆ 教育と福祉の違い
- ◆ 福祉施設の現場より「支援する」とは
- ◆ 特別支援学校高等部の主な進路先
- ◆ 「就労継続支援B型」「生活介護」とは
- ◆ グループワーク

(テーマ：各家庭や学級・学校で取り組んでいる、いろいろなスキル獲得方法)

- ◆ 今、身に付けておくとよい4つのスキル

○希望された保護者とともに聴講しました。4つのスキルとは「意思決定スキル」「援助要求スキル」「余暇スキル」「ほほえみスキル」です。

7 摂食指導研修会

講師 明海大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学
大岡 貴史 氏

「特別支援学校における摂食指導」

- ◆ 就学前の子供の生活年齢に応じた摂食のねらいと内容
- ◆ 口の機能や食べる機能の発達過程や機能に応じた食事
- ◆ 障がい児における摂食行動の問題点
- ◆ 咀嚼・嚥下機能等を動画を使いながら解説
- ◆ 咀嚼・嚥下の状態に適した調理法や食形態

等について、希望された保護者と共に聴講しました。

○摂食支援の成果（機能改善、食行動改善）は、高等部になっても55%と高い割合だそうです。子供の摂食の様子に応じた指導の重要性とその対応について学びました。

8 医療的ケア研修会

講師 医療法人財団はるたか会 前田 浩利 氏（本校指導医）

「学校での医療的ケアの実情と課題」

- ◆ 医療的ケア児の定義
- ◆ 医療的ケア児支援と永田町子ども未来会議
- ◆ 医療的ケア児（寝たきりの子ども、動ける子ども、知的障害がない子ども）を取り巻く状況
- ◆ 医療的ケア児の地域での生活を支える要素（生命の安全、健康の維持、学校教育を含めた社会生活）
- ◆ 医療行為、医療的ケアについて（公的整備、学校）
- ◆ 現在認められている医療的ケアについて

○年に1回、指導医に講話をしていただいています。動ける医療的ケア児が学校を選択でき生活がひろがっていること、私たちが知っておくこと等について聴講しました。

9 認知発達研修会

講師 全国療育相談センター 太田ステージ研究会 障害児基礎教育研究会
立松 英子 氏

「認知発達支援と教材教具の関係について、太田ステージの理論を通して学ぶ」

- ◆ ヴィゴツキーやピアジェの認知発達理論についても触れながら太田ステージを使った療育の背景にある発達支援の考え方について
- ◆ Stage I - 1 ～StageⅣまでの認知特性
- ◆ それぞれのStageで有効な教材例
- ◆ 鳥の絵課題と鳥の絵課題の6タイプについて
- ◆ Stageが異なれば、人との交流をする際に求められるスキルも異なってくる。そうになると支援の方法がこれ迄とは真逆になることもある。

○根拠に基づいた指導を行うために、特別支援学校教員に備えておきたい知識についての研修です。

10 木工教材作成研修会

講師 小竹 明子氏 (本校外部専門員)

- ◆ 城東特別支援学校の児童・生徒は「体験（行為）」を通して学ぶことが得意です。
- ◆ 認知発達の理論や学習指導要領に基づいたシラバスを子供達の学びにつなげる教材を作るにあたって、指導・助言を受けました。
- ◆ 本校の研修希望教員が研修を受け、主に型はめや切片パズル、スライド式数え板を制作しました。



1 1 教材製作研修会

講師 富岡 康一 氏（本校外部専門員）

- ◆ 発達段階に応じた、カード教材（マッチング課題）を用いた指導方法
- ◆ カード教材（マッチング課題）製作への指導・助言
- ◆ 教材作成に関する個別相談

○本校の研修希望教員を中心に、カード教材指導方法を学び、実際に教材作成をしました。

さらに、担当している児童・生徒の様子と課題設定・教材等について個別相談もしました。



12 図書研修

講師 土井 美香子氏（本校外部専門員）

- ◆ 図書室の基本的な利用方法や活用方法
 - ◆ 出前授業・実践の紹介
 - ◆ 参考図書の紹介（例：写真左から「校外行事関係」「生活習慣」「算数・数学」
 - ◆ 児童生徒の実態に合わせた読書活動・読書支援
- 新しい先生も増え、希望する先生を中心に研修しました。



1 3 施設見学研修

◆ 進路支援関係

- ①ワークセンターつばさ（就労継続支援B型、就労移行支援）
- ②中央区立福祉センター（就労継続支援B型、生活介護）
- ③すみだステップハウスおおぞら ひだまり（生活介護）
- ④株式会社ドコモ・プラスハーティ（特例子会社）

◆ 教育支援関係

- ①乳幼児親子教室（江東区）
- ②江東区子ども発達扇橋センター（扇橋C o C o）
- ③台東区松が谷福祉会館こども療育室

◆ 放課後等デイサービス

- ・連携の必要性が高い児童・生徒から優先的に訪問実施

○事業所により見学人数が限られているので、毎夏 少人数の見学を組んで、知識を増やしています。

14 OJT研修

- ◆ 子供達に良い授業を提供し、保護者や地域機関と連携して特別支援教育を進めるには、なんとといっても先生が心身ともに元気であることが前提です。
- ◆ 全部の時間を研修や教材作成、これからの授業構想等に充てられる貴重な夏休みだから、普段話したことがない同僚と話してみよう。新しい切り口の知見が得られるチャンス満載な研修会を実施しました。

①アイスブレイク：同学部・同学年以外の教員とチームを組みハンディボッチャ
トーナメント

②教室でチームごとに情報交換・情報共有タイム

ICT機器活用について／効率（タイパ）の良い業務の仕方／保護者との関係作り
／行動上の課題が大きい児童・生徒への対応／集団授業の進め方／教材作りの
コツ・・・

○本校主幹教諭が考案した内容のOJT研修です。自分一人では解決が難しい時、他の先生の頭脳や手を借りたり、逆に見かけたら貸したりして心身の元気を保とう。

1 5 校内教材展示会

- ◆ 私達は、子供達の課題や操作性に応じた指導をするために、市販教材以外に自作教材も使います。学期中は他の先生の授業や教材を見ることができないので、夏季休業中に校内教材展示をして、相互研修をしています。
- ◆ 今年度は教職4年目以上の教員は全員出品し、3年目以下の教員は出品教材を参考にして、自分はどのように教材作成するか構想シートを作成しました。

